

## 「話すこと」の指導は整理が必要

井上 雅彦(本学教職研究科教授 国語教育学)

私たちは日常生活の中で、絶えず「話す」という行為を行っています。友人との会話や授業での発表など、話すことは人に理解を求める重要な手段です。

### ◆「話す」と「話し合い」

話す活動を考える際には、まず「話す」と「話し合い」の違いを理解することが重要です。「話す」とは、一人の話し手が自分の考えや気持ち、情報などを相手に向かって伝える行為であり、発表やスピーチなどがこれに当たります。一方、「話し合い」は複数の人が互いに意見を出し合いながら理解を深めたり、結論を導いたりする活動です。つまり、話すことが自分の考えを表現する活動であるのに対し、話し合いは相互に意見を交換しながら考えを深める活動です。

### ◆感性に訴えるか論理で攻めるか

話す活動には、話し方の性質という観点から見ると二つの種類があります。それは、感性に訴える話と、論理的に納得させる話です。感性に訴える話とは、聞き手の感情や心に働きかける話し方です。例えば結婚式のスピーチなどで、エピソードを交えて自分の気持ちを具体的に表現すると、聞き手はその場面を思い浮かべながら話を聞くことができます。このような話し方は聞き手の共感を生み出し、人の心を動かす力を持っています。一方、論理的に納得させる話は、商品企画を上司に通す場合などに根拠を示しながら筋道立てて説明する話し方です。具体的な数値や事実を表やグラフで表し話すことで、聞き手は内容を理解しやすくなります。論理的な話し方は、聞き手に理解と納得を促す働きを持ちます。このように、話すことには感情に働きかける側面と、筋道を示して理解を深める側面の二つがあるのです。

### ◆「話し方」と「話す内容」の指導

話すことの指導には、「話し方の指導」と「話す内容の指導」という二つの側面があります。話し方の指導とは、どのように話せば相手に伝わりやすいかという

表現面の指導です。その一つが抑揚です。声の高低に変化をつけることで話にリズムが生まれ、聞き手の注意を引きつけることができます。また適切な「間」を取ることで、聞き手は内容を整理しやすくなります。さらに、声の強弱や速さも伝わり方に大きく関わります。加えて、声色も話し方の重要な要素です。穏やかな声や力強い声など、声の印象によって聞き手の受け取り方は変わります。また「皆さんはどう思いますか」といった表現を用いることで、聞き手を話の中に引き込むこともできます。さらに、表情や視線、身振り手振りなどのノンバーバルコミュニケーションも話すことにおいて重要であり、聞き手との関係を深め、話を理解しやすくする役割を持ちます。

一方、話す内容の指導も同様に重要です。話し方が上手であっても、内容が整理されていなければ聞き手には十分に伝わりません。まず必要なのは題材の設定です。何について話すのかというテーマを明確にすることで、話の方向性が定まります。次に、その題材について話すための材料を収集することが求められます。自分の経験や資料などを集めることで、話の内容は具体性を持ちます。そして、それらの材料をどのような順序で示すかという構成を考えることが重要です。導入・本文・まとめといった構成を意識することで、聞き手にとって理解しやすい話になります。

### ◆「話すこと」の指導は整理を

このように、話すことは単に言葉を発する行為ではなく、話し方と内容の両面から成り立つ表現活動です。表現の工夫と内容の構成を意識して指導することで、話す力はより豊かに育まれます。そして、感性に訴える話と論理的に納得させる話の両方を身に付けることで、人はより深く他者と理解し合い、自分の考えを社会の中で伝えることができるようになるのです。